

法 情 報 学 (第6回)

弁護士 川 添 圭
kawazoe@kondolaw.jp

I 著作物のデジタル化とDRM技術

1 著作物（コンテンツ）のデジタル化

	アナログ世代	デジタル第1世代	デジタル第2世代	デジタル第3世代
音 楽	レコード カセットテープ	CD・DAT・MD (無圧縮)	MP3・WMA等 (高圧縮)	iTunes? (ネット配信)
映像(映画)	ビデオ レーザーディスク	ビデオCD (MPEG1)	DVD (MPEG2)	Blu-ray? HD-DVD?
映像(TV)	アナログ地上波 アナログBS	BSデジタル	地上波デジタル	ネット配信?
映像(写真)	銀塩フィルム 8ミリビデオ	コンパクトデジタルカメラ DVテープ	一眼レフデジタル 8cmDVDカメラ	?

2 コンテンツのデジタル化によるメリット

(1) 利用者の視点から

- ・品質の劣化が少ない
- ・保管面の問題
- ・必要なコンテンツだけを必要な時に必要なだけ利用できる（オンデマンド）

(2) 制作側・配信側の視点から

- ・アナログ方式の飽和→デジタル化による買い換え需要の喚起
- ・コンテンツの再利用（DVD化・ネット配信向け等）が容易
- ・デジタル映像処理技術による表現力の向上
- ・配布コストの減少
- ・品質の維持管理

3 デジタル時代の著作権法

① 「著作物」の拡張

- ・プログラムの著作物（著101⑨，昭和60年改正）
- ・データベースの著作物（著12の2，昭和61年改正）

② 「著作権」の拡張

- ・送信可能化権（著2 I ⑨の5，平成9年改正）

③ その他の制度

- ・デジタル方式による私的利用目的の複製に対する補償金制度（著30 II，平成4年改正）
- ・コピープロテクションを解除する方法による複製の禁止（著30 I ②，2 I ②⑩，平成11年改正）

4 デジタルコンテンツ流通の弊害と対策

(1) デジタルコンテンツの特徴

- ・流通過程で画質の劣化が少ない
- ・コピー技術の向上，大量のコピーが可能
- ・PCの普及によりコピーが容易
- ・インターネットの普及＝不特定多数に対する頒布が可能

(2) デジタルコンテンツの不正コピー特有の問題点

- ・コンテンツホルダーの経済的損失が大きい
- ・カジュアルコピー（違法であることを認識せず行われるコピー）やウイルス等による過失に基づくコピーの危険性
- ・著作権に対する遵法意識の低さ



デジタル著作権管理（DRM：Digital Rights Management System）の重要性

(3) DRMの問題点

① 問題点その1：利用者の賛同を得られるのか？

- ・強力なDRMは，正当なコンテンツ利用者の利便性を損なうこともある
- ・不正コピーを働く不心得者は，ごく一部に過ぎない



正当な利用者の利便性に配慮しつつ，不正コピーによる経済的損失を防止することができるDRM技術のあり方が重要課題

② 問題点その2：世界的な規格戦略の流れに乗れるのか？

日本：コンテンツホルダー寄りのDRM

- ・音楽・映像業界の意思を強く反映
- ・強力なコピーガード（不正コピーの徹底的な防止措置）
- ・ネット配信には消極的

欧米：消費者寄りのDRM

- ・消費者の利便性を強く意識（権利保護以上にビジネスとしての立ち上げとシェアの確保を重視）
- ・音楽コンテンツのネット配信は既に定着

Ⅱ 具体例 － 音楽コンテンツの場合

1 問題点

- ・ MP3（MPEG Audio Layer-3）の流行
- ・ PCへのCD-ROMドライブ搭載＝リッピングが可能
- ・ HDDへの音楽データの記録はデジタル補償金制度の対象外

2 わが国の音楽業界による対策

① ソニー

- ・ ATRAC3方式によるデジタル化（MD，ネットワークウォークマン）
- ・ 自社製プレーヤーでMP3再生機能を排除又は制限
- ・ PC上での音楽管理専用ソフト（SonicStage）
- ・ MDのデータ媒体としての転用禁止（MD-Data専用メディア）
- ・ レーベルゲートCD

< 弊害 >

- ・ コンテンツの利用回数に制限，PCの買い換え等に対応できない
- ・ MP3再生機能を排除したことで市場の支持を失う
- ・ MD-Dataの専用メディア化により記録型光ディスクの派遣争いにも敗れる

② エイベックス等

- ・ コピーコントロールCD（CCCD）
- ・ PCでのリッピング防止

< 問題点 >

- ・ コンパクトディスクの規格外の記録方式＝音質劣化，民生機器の故障等
- ・ リッピング不可 ＝ iPod等のデジタルプレーヤーへの記録ができない
- ・ アーティスト側がCCCDを嫌う事例も（宇多田ヒカル等）

3 海外事例＝iPodによる音楽戦略

① iPodの発売

- ・ 2001年に初代が発売。HDD方式とフラッシュメモリ方式。
- ・ 音楽形式はMP3，AAC，WAV，AIFFに対応。その他，高音質な無圧縮方式のオーディオ（Apple Lossless Audio）にも対応。
- ・ 音楽以外にもJPEGやテキストファイルの表示にも対応し，データディスクとしての使用も考慮されている。

② iPodを活用した音楽配信ビジネス

- ・ 2003年4月に北米でスタート，現在19か国でサービス提供。
- ・ 1曲あたり99セント（米国），0.99ユーロ（欧州）
- ・ 緩やかなDRM技術（「FairPlay」）